

作新学院新聞

発行所
宇都宮市一の沢 1-1-41
作新学院
編集委員会
卒業号編集委員会
印刷所
株式会社宮本印刷

平成二十九年年度作新学院卒業式日程
▽三月一日(木) 高等学校(総合体育館)
▽三月十二日(月) 中等部(小中体育館)
▽三月十四日(水) 小学部(小中体育館)
▽三月十日(土) 幼稚園(ブレイルム)

ご卒業おめでとう

作新学院歌

作詞 石濱恒夫
作曲 外山雄三

一、光り満ちたり輝しなき
知恵の流れにいそしみて
はぐくむつばさひたすらに
若きころのあこがれや
作新の風吹きおこる
われらが愛の学院に

二、望み遠るるたゆみなき
月日の野辺に花摘みて
久遠の窓を指させば
若きいのちの夢多し
作新の風吹くところ
われらが愛の学院に

三、東西の星限りなく
連なる嶺やここかしこ
道なき道も手を組み
若きちからのすすむなる
作新の風吹きそよぐ
われらが愛の学院に

ご卒業を祝う



学院長 船田 元

作新学院の学び舎をこの度ご卒業を迎えた皆さん、おめでとうございます。学んだ学校はそれぞれ違っていますが、「作新民」という建学の精神に触れていたことは、皆さん共通することだっただろう。

世の中の変化に対応して、自らを常に新しくするという力を身につけてもらうため、自分の頭でしっかり考え、新しいことにどんどんチャレンジしてくれました。特に昨年からスタートしたアカデミア・ラボでのアクティブラーニングは、この能力をさらに一層高めることに力を与えたのではないのでしょうか。

作新学院の学び舎をこの度ご卒業を迎えた皆さん、おめでとうございます。学んだ学校はそれぞれ違っていますが、「作新民」という建学の精神に触れていたことは、皆さん共通することだっただろう。

世の中の変化に対応して、自らを常に新しくするという力を身につけてもらうため、自分の頭でしっかり考え、新しいことにどんどんチャレンジしてくれました。特に昨年からスタートしたアカデミア・ラボでのアクティブラーニングは、この能力をさらに一層高めることに力を与えたのではないのでしょうか。

命をつなぎ、命を果たす



理事長 畑 恵 (船田 恵)

四半世紀ぶりに、自宅で迎えることとなった今年のお正月。テレビ中継で見守った箱根駅伝から、大切なことを教えられました。

箱根駅伝では、トップ通過から二十分を過ぎると号砲が打たれ、前区間選手のタスキを待たずに次の選手が繰り上げスタートを切らなくてはなりません。

運命の二十分に間に合うかどうかで、今大会、全国の熱い視線を集めたのが、國學院大に進学した卒業生のK君でした。

九区から十区への中継地点、タスキを待つ後継選手まであと二十メートルと迫ったところ、無情にも一斉スタートの号砲が響き、わずか五秒及ばず國學院大のタスキは途絶えました。

道路に倒れこみ酸素吸入を受けるK君の胸中を思うと、涙が止まりません。たが、不思議と悔しいとか悲しいといった感情は起きず、むしろ神聖で清々しい何かが心の中で揺り起こされました。

駅伝とは、みんなでタスキを「つなぐ」こと。勝敗やタイムを競うこととは次元を異にした、とても大切な普遍的な何かが駅伝には存在する。

だからこそ人々はこんなにも箱根駅伝に魅了されるのだと、教えられた気がしました。

「つなぐ」と言えば、私たちの生命自体、絶え間ない細胞の入れ替わり、つまり新陳代謝によってつながっています。

肌細胞のターンオーバーは二十八日周期、胃腸細胞は数日、筋肉や肝臓は約二ヶ月で細胞は入れ替わります。ずっと変わらないように思える骨でさえ、成人で約三年もすれば、全身の骨が入れ替わっています。

つまり物質的に見れば、今の私は数年前の私とはまったく別の存在であるわけですが、私には私という存在が、私であり続けられるのはなぜでしょうか。

私を私たらしめている精神や思考といったものは、一体どこに存在して、なぜ物質的に身体が入れ替わっても、変わることなく受け継がれていくのでしょうか。

生物学者の福岡伸一さんは、その著書「動的平衡」の中で、「記憶」について次のように言及しています。

「おそらく記憶は細胞の外側にある。たとえ、個々の神経細胞の中身のタンパク質分子が、合成と分解を受けてすっかり入れ替わっても、細胞と細胞とが形作る回路の形は保持される。」

個々の細胞がどんなに入れ替わろうと、神経回路の「つなぎ」方は維持される。記憶は受け継がれる。こうした現象は、たとえ物質としての肉体は朽ち果てようと、その精神や魂は営々と時を越え、後世の人々に受け継がれて行く、家族や企業、地域や民族の営みに似ています。

卒業生の皆さんの中にも、一人ひとり託されたタスキが必ず存在します。それぞれの「命」をしっかりとつなぎ、いつの日か託された「使命」を果たされることを、心から祈っています。

『作新アカデミア・ラボ』 — それは“未来”という大海原を切り拓いて進む「宙船」

1 クエスト・ラボ QUEST LAB



本学の教育方針「自学自習」を体現するラボ。その学びの柱となる、多彩なアクティブ・ラーニングを実践し、思考力や考察力、創造力やコミュニケーションスキルを高めます。生徒自身が主体的に課題を設定し、目的にあわせて学習環境をデザインし、ディスカッションやディベートを通じて問題を解決する力を育んでいます。



アクティブラーニング模範授業 シーズンシップ教育(中・高合同) ポスターセッション クリティカルリスニング

2 ランゲージ・ラボ LANGUAGE LAB



徹底した英語漬けの環境で学ぶ「イマージョン教育」など、「生きた」コミュニケーション能力と世界への広い視野を養います。高速のWi-Fi環境で、世界とリアルタイムでつながります。



オンラインスピーキング



イマージョン教育

特別進学クラスの英語の授業では、オンラインスピーキングを導入しています。生徒は自分が知っている単語を駆使し、外国人講師との会話を楽しんでいます。

3 ダイニング・ラボ DINING LAB



明るくおしゃれな空間で、昼食時は栄養バランスのとれたランチを提供し、授業では食育についての講義などで活用します。また、学院を訪れた人々の憩いのスペースとしてお使いいただけます。



食育授業

「食べる」を考える」をテーマに、日々の食事やお弁当を実例に挙げながら食の重要性を学びました。授業の一環で食したランチプレートには、菜園で収穫した大根や白菜を使用。作る人への感謝も学びました。



小学部給食

いつもは教室でいただく給食を、特別にカフェダイニングでいただきました。高校生になり、ここでランチプレートを食べる日が楽しみです。



ランチプレート

4 コンビニエンスストア CONVENIENCE STORE



食料品や学用品の販売だけでなく、生徒と企業とのコラボ商品の開発など、実用と実践を融合させた新発想のラボ型ショップです。高校生による販売実習や、幼稚園生のお買い物体験など、生きた経済活動を学ぶ学習の場としても活用しています。来秋には山崎製パンとのコラボ商品「作新学院オリジナルランチバック」の発売も予定しています。

5 アカデミア・ゲート&ステージ&ライブラリー ACADEMIA GATE & LIBRARY



元気に朝の挨拶を交わしながらゲートに入ると、左手に勝利の女神ニクが迎えてくれます。右手のライブラリーでは、学院の栄光の軌跡が瞬めず。

6 食育菜園 EDIBLE GARDEN



近隣の方々に指導を仰ぎ、子どもたちが自分で種を蒔き、育て、収穫します。自分たちが育てた食材を調理し、食すことにより、生命のサイクルを実感し、自然環境や命の大切さを学びます。



マルシェ



石窯ピザ焼き実施



ガーデン散策



収穫の様子

オープニングイベントでは、マルシェの開催や手づくりピザ窯での実演試食などが行われました。ガーデンでは野菜や果物が作られ、収穫の喜びを体験しています。



“オール作新”の人間力

～ともに生きていく仲間たち～



復興支援募金活動

東日本大震災から7年、生徒・保護者・教職員すべての“作新力”を集結し、支援活動を展開してきました。昨年は熊本地震、九州北部豪雨災害などの被災地への支援も呼びかけ、協力して下さった方へは、お礼としてみんなで手作りした「作新ローズ」をお渡ししました。



地球環境クラブ発足式

2013年6月5日「地球環境デー」に始動し、設立5年を迎えました。この節目の年に完成したアカデミアラボは、クラブの本部ともなります。地球のために何が出来るか、共に考え行動します。



1万本のバラプロジェクト

日本の伝統工芸でもある折り紙をもとに、誰にでも作れるよう改良された「作新ローズ」。一人ひとり心を込めて作り上げ、多くの人に思いやりと感謝の心を届けます。

真に豊かな未来を切り拓いてゆくために、“オール作新”の名のもとに集う幼稚園児から高校生、学院すべての力を結集し、地球環境保護活動や震災による被災地への復興支援活動を継続して行っています。



中部 ひまわりプロジェクト

震災後から毎年宮城県名取市に贈っている「ひまわりの苗」。被災された方々が大輪の花を咲かせる「ひまわり」によって、少しでも「笑顔・元気」になっていただきたいという思いで、継続して行っている活動です。



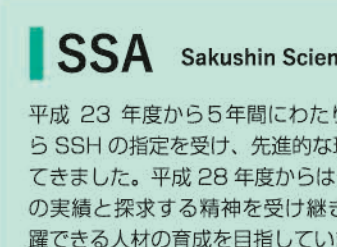
フェアトレード

文化祭でフェアトレード商品を販売することにより、発展途上国への継続的な支援と、訪れた人々に少しでも関心を持ってもらえるよう啓発活動を行なっています。



園児たちから車椅子をプレゼント

アルミ缶を集め、換金したお金で車イスを購入し、施設訪問で交流のある老人ホームに寄贈しています。この活動も5年目を迎えました。



SSA Sakushin Science Academy

平成23年度から5年間にわたり、文部科学省からSSHの指定を受け、先進的な理数教育を実践してきました。平成28年度からはSSAとして、その実績と探求する精神を受け継ぎ、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。



在校生の活躍

～輝ける作新の星たち～



世界No.1

スラックライン

須藤 美青(総3)
2017年世界ランキング
女子の部 世界一



アジアNo.1

女子硬式野球部

遠藤 佳菜子(総2)
渡辺 那奈(総2)
第1回BFA女子野球
アジアカップ 優勝



準優勝

陸上競技部(女子)

福田 奈央(総2)
2018 U20日本室内陸上競技
大阪大会 女子60m準優勝



日本代表

車椅子バスケット

高松 義伸(情3)
O2017WBF男子U23車椅子
バスケットボール選手権大会出場(第4位)
O第9回フジファジ国際車椅子
バスケットボール大会出場(第3位)
O日本選抜大会出場



甲子園出場

硬式野球部

第99回全国高校野球
選手権大会 出場
7夏連続



優勝

弓道部(女子)

第36回全国高校弓道選抜大会
女子団体 優勝
半田 まゆか(総2)
中村 真李(総1)
松井 優香(総2)
原田 侑依(総2)



優勝

パワーリフティング部

第35回全日本高等学校/ワールディング選手権大会
(男子) (93kg級) 渡邊 廉(情2)
(女子) (52kg級) 堀内 梨生(総3)
(57kg級) 小堀 美穂(英3)
最優秀選手賞
(72kg級) 森田 愛己(総1)
(団体女子)



金賞

アフリカ懸賞作文

アフリカ協会主催
第一回高校生懸賞論文
優秀賞 篠原 綾菜(ト英2)
佳作 武田 与(ト英1)

卒業生の活躍

～No.1を目指し続ける先輩たち～



世界No.1

ボルダリング

植崎 智亜さん
スポーツライミングワールドカップ
3種目複合(ボルダリング・
リード・スピード) 総合位
2017年ボルダリング
年間チャンピオン



優勝

空手

渡辺 大輔さん
第45回全日本空手道
選手権大会 個人組手
優勝
数え切れないほどの負け
を経験してきた辛さを糧
に、自信に満ちた一撃で
初めて世界王者を倒し頂
点に立った。



王座

ボクシング

吉野 修一郎さん
プロ日本ライト級チャンピオン
高校時代に4冠を達成。
アマチュアを経て2015
年プロデビュー。7戦全勝。

卒業生の言葉

中等部

出会えた全ての人に
感謝を込めて

生徒会長 榎澤 勇希



農業体験



修学旅行



入学式

三年前の四月八日、満開に咲く桜に季節外れの雪が降るといふ美しい景色に迎えられる、私たちの中等部生活が始まりました。あれから早いもので三年。私たちは本日卒業を迎えます。振り返ってみると、中等部生活は本当にあっという間でした。その中で私たちが、たくさんの人々と出会い、充実した学校生活を送ることができました。合唱コンクールや運動会などの行事はもちろん、日々の生活にも「仲間」や「先生」を支えてくださる「先生」がいたからこそ、何事にも前向きに取り組むことができた。そして、仲間と団結することの素晴らしさ、大切さも学びました。また、「一期一会」の出会いもたくさんありました。震災学習や修学旅行などで出会った語り部の方、スキー実習のインストラクター、



スキー実習



エブロン作成



運動会

卒業生の言葉

高等学校

一校一家の風

生徒会長 早乙女 乃愛



校外学習



合唱コンクール



合宿セミナー

未知なる出会いに心を躍らせた入学式から三年。あつという間に時が過ぎ、卒業式を迎えた今日、振り返ると想像以上に充実した高校生活を送ることができました。個性溢れる良き友と協力し、絆を深めた作新祭などの学校行事。時には熱く議論し、自分の中の世界を拡げた学習。約半世紀ぶりの優勝の瞬間に立ち会うことのできた甲子園での応援。生徒会長として、この大きな作新学院高等学校をまともに経験。どれも作新学院に入学してからこそ得ることのできた唯一無二の思い出であり、日本一と言っても過言ではないくらい良い高校生活を過ごせました。このような三年間を送ることができたのは、常に先生方が私たちと真剣に向き合ってくれたからだと



センター試験



修学旅行



球技大会

保護者の言葉

幼稚園

みんなで遊ぶ幼稚園

保護者 尾花 一浩様 瑛音くん



孝子桜



菜の花見学



こども劇場

入園間近の頃、「ママのお腹の中のこと、覚えていられる?」と何気なくお風呂で息子に聞いてみました。しばらくすると息子は、左右に大きく手を振りながら、最後に涙を拭くような仕草をしました。それは平成二十三年三月に発生した東日本大震災を表現したものでした。「ママのお腹の中で左右に大きく揺られて、怖くて泣いた」とあまりしゃべれないながらも一生懸命、私に教えてくれました。思わず息子を抱きしめた思いが出たこの瞬間のようです。そんな息子も卒園の時期を迎えました。幼稚園生活を振り返ってみれば、四月の孝子桜見学、五月の親子遠足・田植え、六月のプール開き・花の日訪問、七月のお泊り保育、花火大会、八月の宮つ子パレード・梨狩り、九月の大根種まき、十月の大運動会・稲刈り、上野動物園遠足・こども祭り、十一月の大根掘りにパーベキュー、



卒園式



どんど焼き



もちつき

卒業生の言葉

小学部

小学部で学んだこと

児童会長 加藤 楓



稲刈り



盆踊り



修学旅行

私は、入学式の日以来ずっと小学部が大好きでした。毎日小学部に通うのがとても楽しかったのです。一年生の最初は、六年生のお兄さんお姉さんが校門で待っていてくださいます。教室ではお話をしてくださったのでとても安心でした。でも周りを見回すと、なかなか新しいお友達を作れない子や、お父さんやお母さんと離れる時にとても不安そうな顔をする子がいることに気づきました。私のように楽しく過ごせるお友達ばかりではなかったのです。私は、そんなクラスメイトにも学校を好きになっけてはしくて、たくさん話しかけたり、一緒に遊んだりしました。そうすると、クラスのみんなで遊べるようになってきました。この経験から、人の気持ちを考え、行動する大切さを学びました。六年生になり、運動会など小学部の大きな行事を任されることも



クリスマス礼拝



秋の遠足



運動会